

第1回奈良のお薬師さん大賞 受賞者

あまい ひろし

○天井 浩さん（70歳 田原本町在住） 医師

訪問診療の制度が確立する以前の昭和54年のあまい医院開業当初から、患者の自宅を定期的に訪問し、診療・薬の処方・療養上の相談指導を行ってこられました。また、保健所や町保健センターに対し、病気や障害の早期発見のための乳幼児検診の実施方法の指導やスクリーニング基準を検討され、高齢者介護では機能訓練事業や訪問介護等を実施する上で重要なネットワークづくり、チームケア、地域の育成等に公私にわたり尽力されてきました。現在も診診連携を行い、個々の在宅医の負担軽減を図りながら、24時間対応可能なチームケアづくりに取り組んでおられます。

かとう ひさかず

○加藤 久和さん（56歳 橿原市在住） 医師

昭和61年の天川村の診療所勤務時から在宅医療を始められ、加藤クリニック開院後は、訪問看護ステーションとの連携や緩和ケア、看取りにも従事され、24時間対応の在宅医療を実践されてきました。また、各種協議会や部会の委員を務められ、保健所や宇陀市の医療行政とも協力しながら、在宅医療を推進されてこられました。現在重要視されている多業種間での連携システム作りにも尽力され、宇陀市内はもとより、県内外の在宅医療の礎を築かれました。

やしき よしこ

○屋敷 芳子さん（69歳 奈良市在住） 公益社団法人奈良県支部代表

平成8年頃から世話人としての活動を始められ、「認知症の人と家族の会」の設立から現在に至るまで認知症の方と介護家族の支援を続けてこられました。「認知症の人と家族の会」は、介護に関する電話相談・面談・会報発行・街頭キャンペーン・講座開催等の積極的な活動をされており、屋敷氏は親身になって支援をされながら、その活動の推進力となり、家族の会の顔として地道な活動を続けられ、認知症の人や家族にやさしい地域づくりに貢献されておられます。